

高退協ニュース

高知高退協事務局
2011. 3. 1
No.169

2011年
3月1日

高知県高等学校退職教職員協議会
〒780-0850 高知市丸の内2丁目11-10
TEL 088-818-2211 088-2216 822
0165012111 1893

今高教組は

米満敏孝

一〇月三〇・三十一日、未
来をひらく教育のつどい一
二〇一〇年度高校・障害児
学校教育研究会を開催し
ました。同集会実行委員会
には、高退協から橋元さん
と島本さんが、実行委員と
して企画段階から参加して
いただきました。

初日は、高知市勤労者交
流館を会場に五五名が参加
し、「高校生のお会い・発見
・つながり」学力保障・進
路指導「学校づくり・教育
条件整備」の3つ分科会と
全体会・シンポジウム「子
ども・学校・地域の現実か
ら高知の高校・障害児教育
を考える」を、二日目は、
高知女子大学永国寺キャン
パスに会場を移し、三九名
が参加して、「障害のある子
どもたちと学校づくり・地
域づくり」分科会をもちま
した。

今年をつどいでは、全体
会・分科会を通じて、基礎
学力が定着していない子ど
もたちやさまざまな支援を
必要とする子どもたちの現
実をどう認識していけばよ
いのが問われるとともに
に、これからの高知の高校
・障害児教育を考えていく
にあたって、そのような現
実を踏まえ、多様な子ども
たちの可能性を引き出す、
より充実した教育の機会の
保障はどうあるべきかが真
摯に議論されたことに、そ
の特徴がありました。
教科別の分科会は、3月

高退協定期 総会ののご案内

【日時】四月二十三日(土)
午後二時より

【会場】高知城ホール
二階会議室

引き続き

五時三十分より

「退職者をはじめ、
新加入者を祝う会」

高知城ホール四階ホール
会費 五〇〇〇円

体調を整えて、大いに飲み
語り合います。

5日(土)に行います。退
職された皆様も是非参加し
て、ご助言下さい。

飲水思源

「正確な基礎理論
生き生きとした現実感覚」

横田 慧

もう半世紀にもなりま
すが、私が高知県安保共
闘の事務局次長として、
また高知県学習協事務局
長として労働組合などを
まわり、講演をしている
うちに、気づいたという
か、考えさせられたこと
があります。

高知の労働者はとても
戦闘的で学習意欲も旺盛
です。なのに、『資本論』
でいえば、剰余価値、搾
取のあたりまでで「納得」
してしまっていて、蓄積論に
及んでいないみたいなの
です。そのことを学習協
の川島哲郎会長(高知大
教授)に話してみました。
蓄積論まで血肉にしてい
れば、日々の活動を大き
な社会変革の一步一步と
とらえられます。

川島さんは、文字通り
はたと膝を打ち「そうじ
ゃ、活動スタイルに関係
している」と言われまし
た。それからというものが、
「『資本論』は蓄積論ま
でやらんといかん」が川
島さんの口癖のようにな
りました。また、タカク
ラテルさんが高知に来た

とき、「高知の左翼は戦
闘的だが、革命的でない」
と言ったのも、そのあた
りではなかったかと、意
見一致しました。

私は、この「合意」に
力を得て、春闘のオルグ
に招かれたときも、「杖
つくようになってまで春
闘ではなく、春闘のない
世をつくろう」と訴えま
した。さらに、医療労働者
に招かれた講演でも、県下
の労働者を励ます戦いを展
開すると同時に、患者から
心底頼られる医療労働者で
あってほしいと言いまし
た。患者から「うちの息子
の嫁に」と迫られるくらい
に、ともいいました。さら
に学習協の全国大会のよう
な会議で、「会社の外に出
てウマのあう者同士で落ち
合うよりも、敢えて言えば
『模範社員』くらいに働い
て、会社の中に仲間をつく
ろう」と言い、いつとき激
しい議論になりました。

川島哲郎教授は、いよいよ
よ大学での最後の講義を、
「正確な基礎理論と生き生
きとした現実感覚を」でや
ったと言っていて、とても嬉し
そうでした。私は「人類へ
の貴重な言い置きでした
ね」とねぎらいました。

それから三十年の歳月が
経ち、高知市の労働学校で、
この川島さんの「正確な基
礎理論と生き生きとした現
実感覚」の話をしました。
そのレジメをもって川島さ

読書・テニスクラブ等々の
合同新年会ができれば、と
提案したが実現できていな
い。

秦泉寺日記 終結

坪井幹之さんの、秦泉寺
日記・残月記が、昨年11
月号で最後に筆を折った。
本当に長い間の投稿であり、
しかも多岐に渡り、蘊蓄を
披露していただき、ありが
たく拝読した。思えば私、
一人ではない、ニュースを
受け取り、一番に秦泉寺を
読む、これはすごい随筆だ、
いつも楽しみにしている等
々。坪井さんは、山の会・
読書会を立上げ、新年初歩
きも定着させた、2004
年初歩きの海風荘で、俳句・

ニュースから林勤さんの相
撲話し、坪井さんの秦泉寺
日記は消えたが、新しく横
田慧さんの「哲学」、松山
和雄さんの「35mの思
い出」、島本聡さんの「農園
便り」等々連載が始まって
いる。
編集委員のみなさん、今後
も楽しいニュースを届けて
下さることを期待する。W

んを訪ね、お渡しして喜ん
でもらいました。
あの日のことは、生涯忘
れることができません。ま
ず電話をして伺おうとする
と、奥さんが電話に出られ
て「どなたにもお会いして
おりません」にびっくり。
ちょうど川島さんが電話の
傍を這いながら通っていた
で、「だれ、横田くん、来
てもらうて」で決まり。そ
れからまもなく九十歳の
生涯を終えられました。

新年初歩き

今年

行川城ヶ森

恒例の高退協と山の会共催
の二〇一一年初歩きが、一月
六日に行川城ヶ森にて行われ
二十六名が参加しました。

今年も、やや寒かったもの
の晴天に恵まれ、山行きとし
てはまずまずの天気でした。
午前十時に朝倉駅を出発し
宗安寺みろく靈園横を通り、
登って行きました。頂上近く
には土佐の雪道(氷室の道)
の記念碑がありました。藩
世時代に、この付近を通過
本川の手箱山の氷室から切り
出した氷を高知城下まで運ん
だ、と記されていました。

十二時過ぎには頂上に着き
ました。北に行川城址、東に
鴻の森城址、南に朝倉城址が
一望できました。頂上で昼食
をとりましたが、やや寒かつ
たため、早めに頂上を後にし
て、行川公民館まで下りて行
きました。そこにはすでに、
その日の新年会の会場である
オーベルジュ土佐山の送迎バ
スが待っていて、新年会会場
へと向かいました。

新年会は三時開始。更に一
名が加わり、二十七名となり
ました。三谷高退協会長の挨拶
の後、山の会の上岡会長の
音頭で乾杯し、約二時間お互
いの今年の健勝を願って歓談
しました。岡崎顧問の詩吟も
出て、大いに盛り上がりまし
た。(土居)

